

令和6年度 久久平小学校 学校自己評価 集計データ

4 = とてもよい 3 = まあまあよい 2 = あまりよくない 1 = よくない

3. 3以上

2. 8以下

番号		評価項目	評価の着眼点	令和6年度 評価平均	令和5年度 評価平均	令和4年度 評価平均	令和3年度 評価平均	令和2年度 評価平均
5	学校教育目標	地域の特色や学校の実態に即した学校教育目標を設定し、児童生徒・保護者・地域の理解を得ている。	「自ら求める子」の育成。「すすんで学ぶ子」「すすんでつくす子」「すすんで鍛える子」の教育実践。ホームページ・集会等での情宣	3.2	2.9	3.4	3.3	3.2
6	特色ある学校づくり	特色ある学校づくり推進事業が児童生徒の教育活動に効果的であるとともに、事業の計画や成果が広く理解されている。	「みどりの活動」による自然への関心。地域への愛着や誇り。計画的な推進。HPや通信等での情宣。	3.5	3.6	3.8	3.6	3.7
7	施設管理	施設・設備の点検・管理を日常的に行い、その機能を十分に生かして教育活動に活用している。	安全点検の実施と危険箇所等の修繕。安全と健康に配慮した教室環境。備品等の整理整頓。	2.8	3.0	3.2	3.2	3.2
8	家庭・地域連携	保護者・地域との連携を図り、開かれた学校づくりを進めている。	保護者の声の拝聴。HPや通信での学級の活動紹介。保護者や地域を巻き込んだ行事や地域の方に講師やボランティアで協力いただく活動。地域学校共働本部の活用。	3.1	3.4	3.5	3.3	3.3
9	学習指導	学年の学習目標や学習内容を知らせていている。	本時のめあてや課題の焦点化と明確な提示。児童が主体となる課題づくり。見通しをもった学習計画。学習予定や持ち物等の事前連絡。	2.9	3.3	3.5	3.2	3.1
10	学習指導	体験的な活動や問題解決的な学習を取り入れた授業を展開し、児童生徒の学習を充実させている。	校外学習、調べ学習、ゲストティーチャー等を活用し、児童による主体的な学びの推進。問題解決的な深い学びの推進。	3.1	3.5	3.6	3.4	3.3
11	学習指導	個別指導、グループ指導やT.T・少人数指導等の工夫を積極的に行い、個を生かす学習指導を充実させている。	個々の課題をふまえた個別指導の充実。ペア・グループによる対話的な学び。個の考えを全体で共有し、深い学びにつながる協働的な学びの充実。キュビナを活用した個別最適な学び。	2.8	3.1	3.2	3.2	3.1
12	学習指導	指導方法や教材の工夫等により基礎基本の定着度を向上させている。	目標値を設定した学力アップテストで基礎基本の定着。学習課題提示の工夫やICT機器を用いた学習意欲を高める視覚化。キュビナを活用した基礎基本の定着。	2.9	3.0	3.3	3.3	3.1
13	学習指導	子どもの学習状況について、懇談会等で的確に説明している。	説明責任を果たすことができる、計画的で客観的な学習状況の記録。各児童の課題点の把握。学習状況や今後のめあて等を家庭と話し合う機会の設定。	3.1	3.3	3.4	3.3	3.1
14	道徳教育	学校教育活動全体を通じて、体験活動やボランティア活動を取り入れ、心の教育を充実させている。	毎週の道徳の授業とともに、教育活動全体での道徳教育の推進。人権週間における人権擁護委員による「人権を考える集い」の実施。1・3・5・5年生を対象とした「豊田市子どもの権利学習プログラム」の実施。	2.9	3.0	3.2	3.1	3.1
15	教育相談	児童生徒との日常のふれあいを大切にするとともに、教育相談を計画的に実施し、児童生徒理解に努めている。	休み時間等でのふれあいを充実させた児童生徒との関係づくり。「ふれあいタイム」の充実。教育相談週間の活用。SCや心の相談員・SSWとの連携。「子どもを語る会」での共通理解。	3.4	3.5	3.6	3.6	3.5
16	特別活動	学級活動・児童会・生徒会活動、学校行事等を活用し、児童生徒の自発的・自動的な活動の充実に努め、成就感、感動を味わわせている。	係活動や委員会活動等で児童の主体性を重視した取組。児童が主体的に取り組み、達成感を得る行事等の工夫。自己肯定感や共感的人間関係を育む支援。	2.9	3.1	3.4	3.3	3.3
17	生徒指導	基本的生活習慣の定着や規範意識の向上のために、具体的な方策を講じている。	児童が安心して生活できる学級づくりを基盤としたあいさつをする、時間を守る、最後までやり直す「あいさとい運動」の徹底。「ふわふわ言葉」のかけあい。	2.9	2.9	3.1	3.2	3.2
18	生徒指導	いじめ、不登校、触法行為などの予防と早期発見、早期対応に努めて、職員の共通理解のもと組織的に対応している。	児童の言動に留意した、日々からの教師間の密な情報交換。「子どもを語る会」等での共通理解。チームでの対応。家庭との連携。	3.1	3.2	3.5	3.8	3.7
19	健康教育	心身の健康に留意し、主体的に健康づくりや体力づくりができる態度を身につけさせ指導を充実させている。	「いいところを伝え合う日」「外遊び強調週間」「感染症予防指導」「ビカビチ週間」「学校保健集会」の積極的な推進。SCや心の相談員との連携。	3.4	3.3	3.6	3.6	3.4
20	学校図書館教育	図書館の整備に努めるとともに、学校図書館司書との連携を図り、豊かな心を育む読書活動を進めている。	読書活動や調べ学習の推進。読書タイムや読み聞かせの充実。「図書館祭り」の推進。図書館司書やボランティアとの連携。	3.2	3.3	3.1	3.2	3.2
21	情報教育	情報活用能力を高めるとともに、デジタル・シティズンシップの向上を図っている。	調べる、思考する。共有する等様々な学習場面における活用をタブレットの活用。デジタル教科書やICT機器の活用。PC操作に慣れ親しむこと等を通じたプログラミング教育の実践。デジタル・シティズンシップ授業の計画的な実施。	2.8	3.3	3.3	3.4	3.3
22	安全教育	自らの安全を守るための正しい知識と行動に関する指導を計画的に行い、意識の高揚を図っている。	施設や遊具の安全な使用方法の指導。交通安全や災害、不審者対応への具体的指導。ミニ通学団会での定期的な指導と問題解決。	3.2	3.4	3.4	3.2	3.2
23	教育課程	学習指導要領をふまえ、各学校の指導計画に基づいて、適切に実施している。	生きる力を育むための支援。言語活動の充実。基礎基本の習得と活用。「主体的に問題解決に取り組む子の育成」の推進。	2.9	3.1	3.1	3.0	2.9
24	家庭・地域連携	地域・保護者ボランティア等を継続的に活用し、地域活性化に視点をもいた地域ぐるみの教育活動の展開に努めている。	地域学校共働本部やコミュニティ・スクールを核とした地域・保護者ボランティアの教育活動への活用および地域への積極的な関わりや発信。	3.1	3.3	3.4	3.1	3.1
25	家庭・地域連携	保護者や地域・近隣の団や学校、関係機関と連携した危機管理マニュアルを作成し、運用するよう努めている。	保護者や地域・関係機関と連携した危機管理マニュアルの作成。近隣のこども園や中学校と連携した具体的な対応の確認。	2.6	3.1	3.1	3.0	3.0
26	学校経営	教育活動推進のために、教職員の共通理解が図られ、学校が組織として機能している。	情報交換を密にした、指導の共通理解。諸会議の有効性。適性を生かした校務分掌と活動への協力体制。	2.9	3.2	3.3	3.0	3.3
27	学校評価	学校評価の結果を教育活動の改善・充実に活用している。	学校評価委員会を活用した評価の着眼点の検討。PDCAサイクルの徹底。次年度検討会における、結果を踏まえた改善策の協議・提案。	3.1	3.1	3.4	3.1	3.3
28	園・小・中連携	こども園と小学校、小学校と中学校、のように近隣の園小中との指導の連携に努めている。	幼小中連の連携や指導の連続のための「幼小連絡会」「小中連絡会」の開催や個別の面談の実施。	3.1	3.3	2.9	2.9	2.7
29	特別支援教育	特別な支援を要する児童生徒の状況を把握し、保護者・関係機関との連携を踏まえた個別の支援計画を立て、全校体制で支援している。	個別の支援計画の作成と活用。家庭との情報共有・連携。「ハリクとよた」や「こども発達センター」等関係機関との連携。SSWの活用。	3.1	3.3	3.6	3.4	3.3
30	健康教育	健康な身体づくりに必要な食生活の充実に関する指導を、計画的に行っている。	学級で給食への取組のめあてを決め、食に関する意識を高める。バランスの良い食事や清潔で望ましい食習慣の指導。	2.9	3.2	3.1	2.9	3.0
31	国際理解教育	学習や行事等を通して共生の心を育てるとともに、小学校においては、小学校外国語教育を充実させている。	外国语科および外国語活動の時間等を通じて、外国の文化の理解、共生の心の育成。ALTとの連携による指導の充実。	3.2	3.3	3.4	3.4	3.0
32	環境教育	主体的に環境保全に取り組む態度の育成に努めている。	「ぼくの木 わたしの木」の観察活動の実践。各教科や総合的な学習の取り組みの中で育む自然愛護、環境保全の心。	3.4	3.5	3.7	3.7	3.5
33	キャリア教育	望ましい勤労観、職業観がもてるよう、各学年に応じた系統的な指導を行っている。	キャリア・パスポートの活用。勤労体験的な学習の取組。様々な職業に対する関心・興味。自己有用感を育む係活動（当番、委員会活動を含む）の推進。	2.7	3.0	3.1	3.1	2.8
34	教員育成	学校全体で、テーマを明確にし、組織的・計画的・継続的に現職教育研修が進められている。	現職教育研修のテーマの共通認識と授業実践。教員の力量向上と学校の活性化。	3.0	2.9	3.0	3.2	2.9
35	教員育成	非違行為撲滅のため、計画的・継続的に職員が意識できるような取組が行われている。	継続的な呼びかけや情報伝達等の取組。教員間の仲間意識の熟成のための取組。	3.3	3.3	3.4	3.4	3.3
36	教員育成	新たな学びのスタイルの推進のため、学校全体でICT活用指導力の向上に努めている。	ICT機器活用能力を培う実践や取組。教員間での教え合いや学び合い。	2.8	3.2	3.7	3.6	3.7
37	多忙化解消	学校全体で、多忙化解消に向けた取組を推進している。	削減可能な業務の洗い出し。データ整理共有による有効活用。会議、打合せのどちらかの工夫。教員の付き添い下校の見直し。年度末に実施の次年度検討会による教育活動の見直し・精査。	2.9	2.9	3.1	3.4	2.9

「みどりの活動の推進6番」「児童とのふれあいや教育相談活動の実施15番」「主体的な健康づくりや体力づくりに関する指導19番」「主体的な環境教育への取組32番」「非違行為撲滅を目指す教員育成35番」については、直近の5年間で自己評価が3. 3以上で安定しています。「みどりの学校」の伝統を受け継ぎ、保護者・地域を巻き込んだ特色ある学校づくりが根付いていると感じています。「心身の健康教育」については、継続的に取り組んでいる「いいところを伝え合う日」や、児童の実態に合わせた「学校保健集会」の実施、スクールカウンセラーやはあとラウンジスタッフとの連携による成果を教職員が感じていることがうかがえます。ただし、「いいじめ・不登校等の予防と早期発見、早期対応18番」については、教職員は十分心がけて大切にしているつもりですが、保護者アンケートでも保護者の皆様にはまだ伝わっていないところがうかがえます。今後も今以上に意識して、子どもたちとの日々のふれあいを大切に児童理解に努め、子どもからの小さなサインを見逃すことなく、教職員共通理解のもと早期発見、早期対応に心がけてまいります。「学校教育目標「自ら求める子」の児童・保護者・地域への理解5番」については、全校集会や各種行事の校長講話や「あいさとい賞」の発行による「自ら求める子」の推奨、学校だよりやホームページを活用した情宣をして行なったことが自己評価に反映されていると考えます。今後も、学校・家庭・地域が手を取り合い、教育活動を推進できるように努めてまいります。

「情報活用能力を高め、デジタル・シティズンシップを身につけさせる情報教育21番」「新たな学びのスタイルの推進のための、ICT活用指導力の向上36番」については、直近の5年間のなかでも低い自己評価となりました。これらは、昨年度までのコロナ禍において取り組んできた現職教育が「ICT機器を活用した教材開発」であったものを、今年度は「主体的な学びの姿を引き出す授業の工夫」としたことによるものと考えます。これまでの現職教育で培ってきたICT機器を有効に活用した授業づくりを継続しつつ、教職員のさらなる力量向上に努めています。また、「保護者や地域、関係機関と連携した危機管理マニュアルの作成と運用25番」「系統的なキャリア教育33番」についても、自己評価の低下が見られました。危機管理については、学校・地域の特性や実情に即した危機管理マニュアルを作成し、PTA会議や学校運営協議会等で保護者や地域との連携を確認したり、関係機関と連携した訓練を実施したりして、実際に機能するマニュアルになるよう定期的な見直しと改善を図っています。また、キャリア教育については、児童が学習や行事等の記録を蓄積するキャリア・パスポートやキャリア・ノートを継続的に活用し、児童自身がキャリア形成を見通したり、振り返ったりすることができるよう努めています。